



パンを粗末にしてはなり
ません

硯山人

これはチロル地方の昔話です、
今でこそインスブルクの山村は不毛の地ですが大
古は中々以て青々とした田畑やこんもりとした山
林が茂つて居て大層肥沃な土地だったのです。そ
れがどうしてこんな荒蕪な地になりましたかと申
しますに、それは大分昔のことでしたが、この地
にフットと申します女王様がいraftしやいまし
た。
この女王様は大層亂暴な御方でした。身の丈は六
尺以上もあつたと云ふことです。

或日のとこの女王様の大事なく、皇太子様が外からワ〜泣いて歸つてまゐりました。それは侍従の人々がとめるもさかないで、檜の木へ登りましたところが、うん悪くそのてつぺんから沼の中にまつさかさまに落ちましたので、御付の人々がやうやくお助け致したので、今泥だらけになつて御殿へ歸つてきた處なのです。

この皇太子様も女王様にまけない亂暴な方で。ことしまだ八ツの子供ですのに大人の云ふことをさかないでと〜沼の中になつてこちる様な終末になつたのです。然しまあたすかつて幸でした。

さて皇太子が泥だらけになつてきたのを見ました女王様は。

「ヲヤ〜、可愛そうによ〜、泣かなくてもいいよ、今にかあさんがもつとよい上衣をこしらいてあげるから」とすかしながら、侍女にい〜つけましてそこにあつたパンで身体中の泥をふかせました。

皆様も御存じの通りパンはその日〜の命をつなぐ大事な貴い品物です決して身体泥などふく様な物では御座いませぬ。

天に見ていらつしやる神様はこの女王様の亂暴はまる有様を御覽になり、大層御立腹をそばしました。そこで今迄よかつた御天氣が、急に薄暗くなりなりましたと思ふ間もなく、雷様がゴロ〜となつて参ります、雨はザア〜とまるで盆を傾ける様に降つて参りました其中に大層な地なりがして女王様の御殿から大きな火柱が二本ニヨッキと立ち上りました。

やがて雨ははれましたが宮殿はその跡も形もなくなりました。それから云ふものはインスブルグには、いくら御麥をまいても米をまいても實のらず、住んでいる人も一人へり二人へり、今では見るも恐ろしい、さむしい山の間の荒地となりはてしましました。

皆様なんと恐しい御話しではありませぬかですか

ら決して食物を粗末になさつてはなりませんよ。

(をばり)

不思議なおみやげ

とよ子

むかし〜ベニスと云ふ所に一人の商人があまりま
して此人に太郎と云ふ一人の腕白な子息が居りま
した。或時お父さんは商ひで遠くの國へ行かねば
なりませぬので旅のお支度をして居らつしやる所
へ太郎が遣つて來まして、いつもに似氣なく「お
父さんいつていらつしやい」と申したのでお父さ
んはアイヨ、歸りにはおみやげを買つて來て上げ様
かな。何がほしい？」とお云ひ掛けになりました
から太郎は喜んで「お父さん何うか日本一の不思
議なおみやげを頂戴！」と申しました。

「ヨシ〜日本一所か世界一の不思議なおみやげ
を買つて來て上げ様、けれどお父さんのお留守中

はかとなしく母様の言ふことをよく聞かなければ
上られないよと云つて、お出掛けになりました。
太郎はお父さんのお留守におとなしくして居まし
たらうか世界一の不思議なものは見付かりました
かしら。お父さんはだん〜行つて透〜或町に
來ました。御用もあらかた濟んだので、さて是か
らおみやげの不思議なものを探したいものだ
と彼方此方眺めながら行きますと向ふから一人のお
爺さんが來ました。お父さんは

「モシ〜お爺さん私は子供に世界一の不思議な
ものをおみやげに買つて居つて遣りたいのですが
何かよいものはありますまいか」と尋ねますと
「それはよいものがある、私と一所にかいでと云
ふので着いて行きますと町はづれの或一軒の家に
入りました。家の中にあつて色々話をして扱て不
思議なものを早く見せて下さいと云ふとお爺さん
は

「あゝ丁度お晝になつたから御馳走をし様」と大き